



# ゆくて遥かに

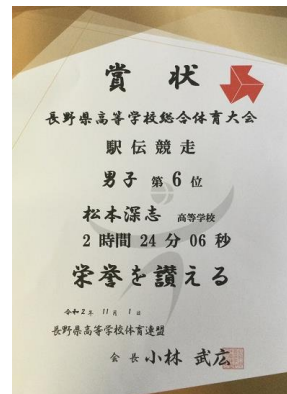
令和2年11月9日(月)

第132号

長野県松本深志高等学校長

## 運動部各競技新人戦で活躍(10月31日)

コロナ感染症対策をとりながら、中信地区高等学校新人体育大会(新人戦)が行われています。春のインターハイ予選と違って、競技によって開催期日が異なる分散開催。これまでに、県大会出場を勝ち取った競技を紹介します。ソフトテニス男子個人、弓道女子個人、剣道男子団体・女子個人、バスケットボール男女、バドミントン男女団体・男女個人。サッカーは選手権大会が行われていて県ベスト16進出、また陸上は以前お知らせしたとおり、1600mリレーで北信越大会に出場、駅伝で男子が県6位に入賞。今週は二学期期末考査です。



## 体験入学の質問への生徒回答 ~その3~(9月26日)

9月5日に実施した体験入学において、「在校生の想い」として3名の生徒代表が、深志での高校生活の体験について、保護者・引率職員の皆さまにそれぞれ発表しました。その際、ある保護者の方から「直面した困難が大きくて乗り越えられるか不安になった時、どうしたら次の段階に気持ちを進められるか。何が力になるか。また、私たち親や大人の何が助けになるか」との質問が寄せられました。生徒の回答の紹介(原文のまま)第3弾、最終回です。少々長いですが、できるだけ引用します。「(前略)質問拝読したところ、既に、その年代と思えないほどの、高度な課題へのアプローチをなされているように思えます。必要な能力は既に備わっていて(勿論、大小はさておいてです)その上で、課題にいくら向き合えども、何も見えてこないということでしょう。だから、課題に向き合うことを一度置いて、『課題を分析する前に自分を分析するべき』だと思います。自分を分析するということは、自分をよく知ることです。自分はどこに欲求を感じるのか、自分はどのような思考の持ち主なのか、どのように育ってきたから今の自分がいるのか…僕は、何か事象がある度にその時の自分を深く考えます。例えば失敗した時、そんな能力が足りなかったのだろう。あの失敗は自分のどういう気持ち、態度から来たのだろう。そうなったのは自分がどんな人間だからなのか。そもそもなんでそんな人間になったんだっけ。僕はこのやり取りをととても大切にしています。さて、これをすると何が起こるのか。まず単純なことから、『自分の劣勢を受け入れられること』です。漠然と上手くいかないとなると当然不安になると思います。課題にだけ目を向けると、太刀打ちできるのか、出来ないかだけをみてしまう気がします。しかし、そこで自分の分析をしてあげると、どんな能力が足りないのか、今のなかがダメなのかを知ることができると思います。そうすれば、同じ出来ないでも新たな発見は間違いなく多いし、もしかしたらその場で新たな糸口を見つけられるかもしれません。例え、失敗があったとしても、自分の内面や思考を考えた時に、明確な変化に気づくことができると思います。そうすれば、自分を取り巻く環境が変わっていようとなかろうと、自分を成長させたという達成感を得られ、確かに前進していると思うことができると思います。(課題をやり遂げた時、取り組んでいる途中どちらにも当てはまると思います)そしてここからが本質的な意義になります。それは『そもそもの



紅葉の季節……落葉掃除も加わりました

課題を見つける姿勢』にあります。自分を理解する上で一番大切なのは、自分の『根本にある欲求を知る』ことだと思います。僕は昔からゲームが好きでした。しかもジャンルは決まって、自分で育成し足り組み合わせたりして他の人と戦う様なものでした。しかもプレイがある程度パターン化すると途端に飽きていました。他にもバスケットボールが大好きでした。これらの自分がはまるものの特徴とそれをする上での自分の姿勢を考察してみると『自分で考え、それがあっているか実践すること』がありました。語彙がないので、自分で言っときながらこれがなんの欲求とは言えませんが、これだけわかっていれば十分です。まず、ゲームやスポーツである必要もないのかということに気づきます。何なら、環境はもっとクリエイティブな方がいい。高校生でするなら生徒会とかかな。だったらより自由な高校に行きたいな…(気づいたら深志にいました)自分の欲求がどこにあるかわかると進むべき道が分かります。そしたら課題も自然に設定されます。しかもこの課題は、自分の内面から発生しているので、自分の本当にすべきことであるはずだし、何より自分の能力とのギャップも少なくなると思います。(対比されることとして、自分を見ずに立てた目標は実は周りに流されているだけだったりして、自分のレベルに合っていないかったり、実は本当にしたいことでないかもしれないことです)そしてさらには、その一つの課題に固執しなくなると思います。なぜなら失敗に終わったとしてもその先でまた挑戦すべきこと見つけられるからです。目標は終着点だと思わないし、課題は壁ではないのです。取り組むべきことなんてその時の自分が知っている一番自分のためになることでいいはずです。これを成功させなければいけないとか、目標をしっかり持つとかそんなのはそんなに必要ないと思います。もっと行き当たりばったりでもいいと思います。たとえ、思い付きで生きていても自分のことを良くわかっていたら道を間違えることはないと思います。(中略)自分を成長させるものはやはり経験だと思います。基盤はすでに整っていると思います。僕よりもっと長く生きている人の話をたくさん聞いてたくさん学んでください。応援しています」



### その他の話題をいくつか

★ 10月30日の放課後、応援団管理委員会の生徒たちが小林有也先生の胸像の清掃を行っていました。年に一度、有也先生と対話をしながらの、丁寧な奉仕活動。命日のお墓参りは知っていましたが、私が高校生の頃には、応援に、この慣習はなかったように記憶しています。そこで応援OBの先生に聞いてみると「やっていたような気がする」との回答……自分が知らなかっただけです。

★ 第1回高校入試志願者予定数調査が30日に公表されました。本校には462名の生徒が志願予定としてくれました。来年度の募集人員の発表は13日です。



### 今週の予定 (期末考査、実力テスト)

日	曜日	行事等	その他(主に校長動向)
9	月	期末考査(1・2年) 実力テスト(3年) 学年会	学校安全衛生委員会
10	火		
11	水		心の支援課研修
12	木		
13	金	定期健康診断(歯科、1・2・3年)	全高長研究協議会
14	土	深志42回生特別講義 授業公開(1・2時限) 特曜	卒業30周年記念式典
15	日	英語検定	
16	月	学年会	教育関係功労者表彰